

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2007年10月下旬から12月上旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 徐々に減少し、10月下旬以降は低位水準となる。11月中旬にはほぼ終漁する。
- (2) 漁場: 10月下旬は、霧多布沖～襟裳岬沖に漁場ができる。霧多布沖の漁場は11月上旬には消滅し、11月上旬は釧路～襟裳岬沖が漁場となる。釧路沖の漁場は11月中旬には消滅し、襟裳岬沖でも散発的となり終漁する。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 来遊量は徐々に減少し、10月下旬～11月中旬は中位水準、11月下旬～12月上旬は低位水準となる。
- (2) 漁場: 10月下旬～11月上旬は、八戸～金華山沖に漁場ができる。八戸沖の漁場は11月中旬には消滅し、11月中旬～下旬は宮古～金華山沖が、12月上旬は大船渡～金華山沖が漁場となる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月下旬は低位水準ながらも来遊がある。11月上旬には中位水準、11月中旬には高位水準にまで増加する。11月下旬以降は減少し、12月上旬には低位水準となる。
- (2) 漁場: 10月下旬～11月上旬は、常磐北部が漁場となる。11月中旬には、鹿島灘でも漁場ができ、11月中旬～12月上旬は常磐北部～鹿島灘が漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	低位減少	断続的		
	漁 場	霧多布 ～襟裳岬沖	釧路～襟裳岬 沖	襟裳岬沖		
三陸海域	来遊量					
	動向	中位減少	中位減少	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	八戸 ～金華山沖	八戸 ～金華山沖	宮古 ～金華山沖	宮古 ～金華山沖	大船渡 ～金華山沖
常磐海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	高位増加	中位減少	低位減少
	漁 場	北部	北部	北部～鹿島灘	北部～鹿島灘	北部～鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(10月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬・前年を下回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は期前半に徐々に減少したが、期後半に増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南～霧多布南の 10～30 海里付近(表面水温 11～14℃)、釧路南東～南の 20～25 海里付近(13～14℃)、襟裳岬南～南南西の 40～60 海里付近(18～20℃)であった。落石～霧多布沖では、小型船が多数操業し、多くは満船となった。釧路沖では、2～4 日夜に小型船 20～40 隻程度操業し、多くは満船となった。襟裳岬沖では、1～6 日夜と 10 日夜に大型船が数隻～10 隻程度操業し、50～100トン以上漁獲した。

(3) 魚体

落石～霧多布沖では、29～30cm モードの大型魚が主体で 24～25cm モードの中型魚が混じる。釧路沖と襟裳岬沖では、30cm モードの大型魚が主体で、中型以下の魚の混じり具合は落石～霧多布沖よりも少なかった。体重 140～150g 台が主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬・前年を上回り、高位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半に来遊量が急増し、その後やや減少したが、期後半に再び増加した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、八戸東北東～東の 30～50 海里付近(16～19℃)、宮古北東～釜石東の 10～15 海里付近(18～20℃)、大船渡東～東南東 10 海里付近(19～20℃)であった。八戸沖では、1～3 日夜に大型船 5～15 隻程度操業し、65～100トン以上漁獲した。宮古～釜石沖では、ほぼ連日大型船が数隻～20 隻程度操業し、70～100トン以上漁獲する船が多かった。大船渡沖では 6 日夜に大型船が 20 隻程度操業し、80～100トン以上漁獲した。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体で、中型魚の混じりは少なかった。